



株式会社 フォティーンフォティ技術研究所
〒162-0805 東京都新宿区矢来町 126 NITTO ビル 1 階
Tel:03-6413-5177 Fax:03-3269-5711

2010年1月12日

報道関係者各位

フォティーンフォティ技術研究所、Windows 2000 へ脆弱性攻撃防御機能を提供

— 製品の移行を適切なタイミングで行える選択肢を、すべての企業へ —

株式会社フォティーンフォティ技術研究所は、2010年7月13日にメーカーサポート終了となるマイクロソフト社の「Windows 2000」の稼働維持を目的とし、既知・未知の脆弱性攻撃からシステムを保護する『FFR yarai 脆弱性攻撃防御機能 for Windows 2000』を2月8日より発売を予定しています。



Yarai
脆弱性攻撃防御機能
For Windows 2000

Windows 2000の移行期間における
セキュリティ脆弱性対策

製品名：FFR yarai 脆弱性攻撃防御機能 for Windows 2000

対象 OS	販売期間	金額
Microsoft Windows 2000 Server Standard および Advanced Server (Data Center Edition を除く)	2010年2月8日から 2010年3月31日まで	10,000円 (税抜き)
Microsoft Windows 2000 Server Standard および Advanced Server (Data Center Edition を除く)	2010年4月1日から 2010年12月31日	20,000円 (税抜き)

本製品は、2010年12月31日をもって販売を終了いたします。



情報システムを円滑に運用するためには、メーカーのサポートライフサイクルに合わせてシステム改定を行う事が必要とされ、システムの移行を計画的に実施することが求められています。これは、メーカーのサポート・メンテナンス期間が終了することにより、製品の不具合やセキュリティ上の脆弱性が修正されないことに対する、ユーザー自身の取り得る唯一の方法でした。

しかしながら、昨今の景気の悪化や新たな IT 投資など、限られた予算の配分のための優先度を見直しするなかで、高額な製品の移行費用が確保できない、旧製品との互換性の問題により代替え案が存在しないなど、サポート期間終了後もセキュリティ面の懸念を抱えたまま、システム運用を続ける予定の企業が少なくありません。

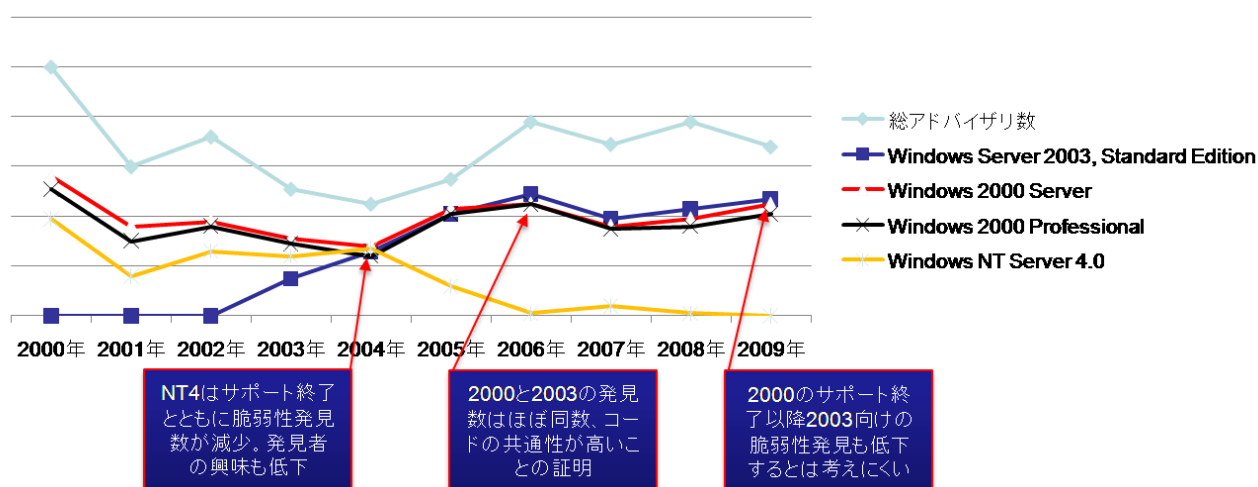
当社がお客様よりいただいたご意見を大別すると、以下のようなものが挙げられます。

- サポート終了製品の移行は、ハードウェアの買い替えコスト、ソフトウェアの更新コスト、アプリケーションの互換性などの問題により、容易には実施ができない
- ITコストの削減により、利用できる製品のマイグレーションよりも、別の投資を優先しなければならない
- セキュリティ対策方針として、セキュリティアップデートの適用を義務化し、的確な管理を行っている企業ほど、運用管理ポリシーと製品移行ができない問題の不整合に悩んでいる。

弊社では、IT利用者がメーカーの設定したサポートライフサイクルに追従する困難さを鑑み、このようなお客様の声に対する弊社なりの回答として、FFR yarai に搭載されている脆弱性攻撃防御機能を Windows 2000 上で動作するように改良した、『FFR yarai 脆弱性攻撃防御機能 for Windows 2000』を発売することに決定いたしました。

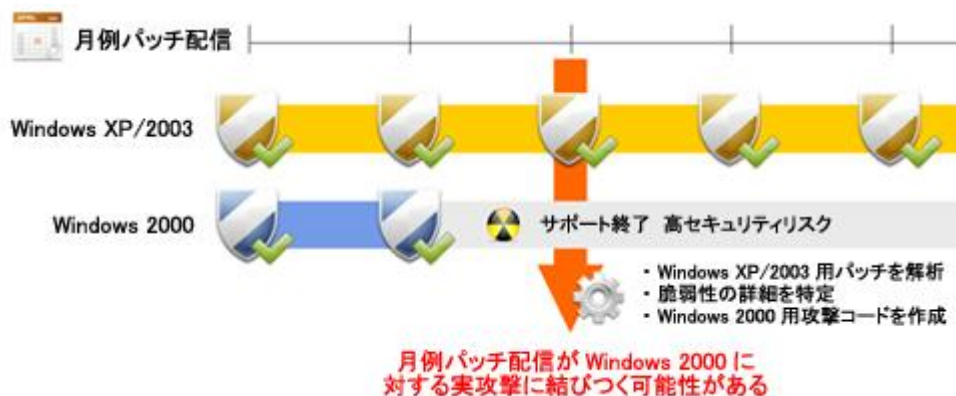
この製品が提供されることにより、企業は脆弱性への攻撃行為を検出し実行を阻止することで、社内で悪質なソフトウェアが実行されることを防ぐことが可能になります。

また、弊社は常に各製品の脆弱性発見状況を監視しておりますが、Windows 2000 の脆弱性は Windows Server 2003 の脆弱性と多くの共通したコードがあると考えており、Windows Server 2003 向けの脆弱性には、Windows 2000 にも影響を及ぼすものが存在します。

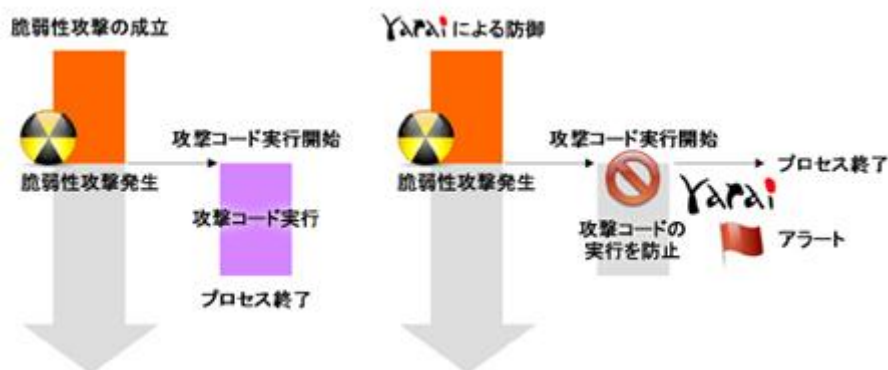


参考：当社調べ

しかしながら、サポートが終了した Windows 2000 には対策用のセキュリティ更新プログラムが提供されないため、脆弱な環境が運用されることになることを懸念しています。



「FFR yarai 脆弱性攻撃防御機能 for Windows 2000」は、Windows XP 以降に搭載されているハードウェア DEP に似た保護手法をソフトウェア的に実現する事により、プログラムの実行時の不正な行動を監視し攻撃の成功を阻止します。DEP は、Return to LibC などの回避を行う手法が存在しますが、弊社の脆弱性攻撃防御機能は、これらバイパス攻撃も検出できるように実装されており、通常のパターンファイル検知型のセキュリティ対策では実現不可能な、既知および未知どちらの脆弱性を悪用した攻撃に対しても、高い精度の検知、プロセスの停止を可能としています。



本製品の特徴は、以下を参照ください。

- 脆弱性攻撃の検出エンジン
 - 脆弱性を狙った攻撃が行われた際、攻撃者が用意した悪意のあるプログラムの実行を検知する仕組みが実装されています。未知・既知の脆弱性に関わらず、ウイルスやハッカーがこれらを悪用した攻撃を非常に高い確度で防御できます。
- 二つの保護モード
 - 脆弱性攻撃を検出した際に、イベントログへ攻撃を検出したことを記録し、その後の処理を続行させます。本製品を導入直後に、運用検査を行う際に使用します。
 - 脆弱性攻撃を検出した際、ハッキングやウイルス感染を防ぐためにプログラムを停止させます。
- 最小限のシステム負担
 - 安定稼働をしているサーバへ導入することを想定し、可能な限りシステム負担を低減させるた

め、監視するプロセスを個別に指定することが可能です。



本製品の開発にあたり、IT を企業戦略に利活用をされているセイコーエプソン株式会社様より、さまざまなアドバイスをいただきました。本製品の発売について、以下のようなコメントをいただきましたので、掲載をさせていただきます。

『セイコーエプソン株式会社は、情報システムを企業戦略の重要なものとして認識をしており、コンプライアンスや情報保護に対して積極的に取り組んでおります。

弊社は情報システムを運営するにあたり、投資コストと優先度を熟慮しながら対応しており、メンテナンスが終了する製品については順次新製品への移行を進めております。

しかしながら予算の問題、ソフトウェアの互換性の問題などにより移行を即座に行えないシステムなどが存在することも現実であり、メンテナンス後のセキュリティ対策に懸念を持っていました。

今回株式会社フォティーンフォティ技術研究所より、Windows 2000向けの脆弱性攻撃を保護する製品が発表されたことを受け、既存のシステムが移行時期を迎えるまでのあいだは、この製品で保護を行う予定にしております。

ソフトウェア環境の更新は企業にとって非常に重要な決断となりますが、この決断は利用する企業自身がコントロールすべきものと考えており、この製品がコントロールの幅を持たせてくれるものと期待しております。』

セイコーエプソン株式会社 生産力強化戦略本部 情報化推進部
部長 熊倉 一徳

弊社は、企業が情報システムを安心・安全に利活用いただくことを目指して企業活動を行っております。本製品の提供が、少しでも健全な情報システムの運営に寄与できることを期待しております。

<p><製品概要></p> <p>【製品名】 FFR yarai 脆弱性攻撃防御機能 for Windows 2000</p> <p>【URL】 http://www.fourteenforty.jp/products/ZDP</p> <p>【内容】 サーバOSのサポート終了後脆弱性を高確率で保護、機能継続を可能とする「ZDPfor2000」</p> <p>【発売日】 2009年12月25日</p>	<p><会社概要></p> <p>【代表者】 鵜飼 裕司 (ウカイ ヨウジ)</p> <p>【設立】 2007年7月3日 【資本金】 7,780万円</p> <p>【事業内容】 コンピュータセキュリティ研究、開発、コンサルティング</p> <p>【URL】 http://www.fourteenforty.jp/</p>
<p align="center"><本件に関するお問い合わせ></p> <p align="center">株式会社フォティーンフォティ技術研究所 プロダクト営業部までお願い致します。</p> <p align="center">TEL : 03-6413-5177 FAX : 03-3269-5711 E-mail : sales@fourteenforty.jp</p>	